

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故から1年

【内部被ばく・外部被ばくをどう減らすか】

国立環境研究所(つくば市)との共同調査研究チームを組みます

あなたのお家のホコリ・チリの放射能は何ベクレル？

家の「掃除機ダスト」の放射能調査を実施します。

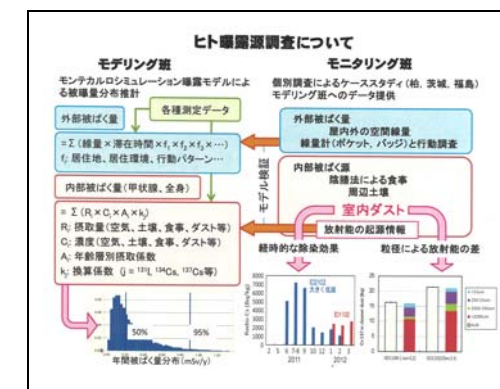
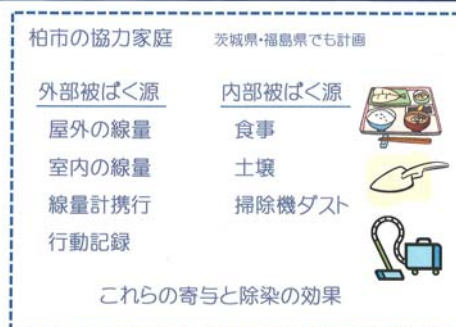
参加・協力をお願いします！

いっしょけんめい部屋の掃除をしても、室内線量がある限度以下に下がらないのはなぜか？ 外から持ち込んで来るのか？ 窓から入ってくるのか？ そもそも周辺地面からの線量が高いのか？

○家庭の掃除機ダストの線量が1,000~2,000ベクレル/kgより下がらない

○生協2Fフロア掃除機ダスト(フロアは上履きですが)は、14,000ベクレル/kgにも！

ホットスポットでの曝露源調査



6月9日総代会に向けて 春の地区懇談会が始まります。ぜひご参加を！

地区	日程	時間	会場
つくば	4月12日(木)	10:00~12:00	竹園交流センター・和室
牛久	4月13日(金)	9:30~11:30	中央生涯学習センター・調理室
守谷	4月16日(月)	10:00~12:00	ブランドシティ・スタディールーム
利根	4月16日(月)	10:00~12:00	布川地区コミュニティセンター・2F会議室
土浦・阿見	4月17日(火)	10:00~12:00	四中地区公民館・1F会議室
流山	4月17日(火)	10:00~12:00	流山市生涯学習センター・会議室C203
石岡・小美玉・かずみがうら	4月18日(水)	10:00~12:00	かずみがうら市勤労青少年ホーム・2F集会室
我孫子・印西・白井	4月19日(木)	9:30~11:30	我孫子南近隣センター・和室
松戸・鎌ヶ谷	4月20日(金)	9:30~11:30	小金原市民センター・茶室
柏	4月20日(金)	10:00~12:00	光ヶ丘近隣センター・和室
龍ヶ崎	4月24日(火)	10:00~12:00	松葉公民館・和室
取手	4月25日(水)	9:30~11:30	ゆうあいプラザ 2F研修室
つくばみらい	4月26日(木)	9:30~11:30	センチュリーつくばみらい平・多目的ホール
常総・坂東	4月26日(木)	10:00~12:00	岩井公民館・第一会議室

【TPPフォーラム・中野剛志講演会(3/22 つくば国際会議場)】

TPPは、日本人の誰にとっても何のメリットも無い。「何でこんなバカな判断をしたんだらう」という出来事は、歴史上あったが、同じことをしようとしている。

茨城県の農協、漁協、森林組合などと共に常総生協も主催者に加わり、3月22日につくば国際会議場・大ホールで「TPPフォーラム」が開催されました。

会場いっぱい1,000人以上が集まり、京都大学大学院准教授、中野剛志氏の講演を聞き、あらためてTPPが国民生活全般に及ぼす影響について学びました。



集会の最後は、昨年11月、JA茨城中央会と共に、永田町の国会議員会館前でTPP法案可決阻止の座り込みも行った常総生協が指名を受け、村井理事長が挨拶を行いました。

を増やすことで5,000人の職が維持される」と演説したが、これはアジアの雇用を奪うということ。

・TPP参加国は輸出依存度の高い国ばかりで、日本の輸出先などなく、あり得るのは米国だが、米国は、輸入を増やす気は無い。逆に実は内需大国である日本(輸出立国は思い込みでGDPの1割程度)が輸出先のターゲットになる。

・アメリカの主たる狙いは、関税より非関税障壁。金融、保険、医療、電気通信、知材、メディアなどのサービスの輸出増加が狙い。日本人の生活全般に大きな影響を及ぼす。

(村井理事長挨拶)

国際社会に生きる私たち、一人ひとりの1日1日が大切だと教えられた。「食は生命」に対し、TPPがどういう関わりを持つのか、国のあり方、自立のあり方、一人ひとりの生き方が問われている。

一人ひとりの心のあり方が国を変える。力あわせ、心あわせ、自立した未来明るい日本の国にしたい。



【中野剛志氏・講演内容から】

・日本の関税率はアメリカを除けば、他の主要国に比べ低く、既に十分に開かれている。「開国」宣言は、逆に日本は閉鎖的だという誤ったメッセージ。

・オバマ大統領は、横浜で「今後5年で輸出を倍増させる国家輸出戦略を進め、アジア地域への輸出

フリードル先生とテレジンの子どもたち出版記念

「野村路子講演会」開催のお知らせ

【日時】4月7日(土)

【場所】アルスホール

(つくば市中央図書館 2F)

(資料代)500円 ※高校生以下無料

13:00 開場

14:00 展示会の報告発表

14:30~16:00 講演・野村路子さんのお話

「フリードル先生とテレジンの子どもたち」出版記念

主催:テレジンを語る会いばらき

「フリードル先生とテレジンの子どもたち」~ナチスの収容所にのこされた4000枚の絵~

- アウシュビッツへの中継地テレジン収容所にいた1万5000人の子どもたち
- 収容所の中で子どもたちに絵を教えたフリードル先生

昨年10月の常総生協・食といのちの連続講座「テレジン収容所の小さな画家たち展」で交流した野村路子さんが、出版記念の講演をされます。ぜひお出かけ下さい。

国立環境研究所・常総生協 合同調査

『室内ダスト放射能調査』にご協力を

国立環境研究所(つくば市)では、「ヒト被ばく源調査チーム」がつけられていて、ホットスポットエリアでの年間被曝線量のモデル化を目的に、各種データのモニタリングをすすめています。

●家の中の塵・ホコリに注目

チームのモニタリング班は、内部被ばく線源として「室内ダスト」に注目し、柏市の協力者の家の掃除機ダストの放射能の「予備調査」をした結果、掃除機の塵・ほこりの汚染が家屋の高さや環境によっても大きく幅があることや、2,000ベクレル/kg以下になかなか下がらない傾向があることがわかりました。

●常総生協への共同調査呼びかけ

環境研より、この家庭ダストの「本調査」を、常総生協組合員の協力を得て「共同調査研究」をしたいとの要請がありました。この要請を受けて、ごいっしょすることにしました。

2月に生協職員と脱原発委員さんが国立環境研究所より「放射能の環境汚染」についてのレクチャーを受けており、その縁で今回の要請となりました。

組合員のみなさんのご協力をお願いします。

特にハイハイする赤ちゃんがいる家庭では、「家のほこり」は外部被ばくだけでなく、手についた微粒子をなめてしまうおそれもあります。

■原発事故からの核分裂生成物(セシウムなど)は気化して放出されたのち、すぐに他の物質と結合したり固着して「微粒子」として存在しています。

■事故直後には、生協のニュースでも「窓を開けないように」とか「部屋は拭き掃除を」等と呼ばかけましたが、その後なかなか具体的な提言ができませんでした。外から帰ったら靴は衣類のはたき、鼻や喉の洗浄・うがい等も有効だと思います

。環境研とともに、汚染の実態を調べ、どのように家庭での注意や除染をするのが効果的

※ガラスバッジによる被ばく調査参加者はぜひご協力をお願いいたします。

かをみんなで探っていきたいと思います。

【調査の目的】

室内の被ばく源の実体と入ってくる経路を調べ、室内での被ばく(外部被曝・内部被曝)を減らすために、どのような対策・注意、掃除をするのが有効かを実証的に明らかにする。

【協力方法】

1. 家庭の掃除機のダストを月次で提出して頂きます
2. 「調査票」を記入して頂きます
3. 生協のサーベイメータで室内の空間線量、周囲の空間線量の測定をお願いすることがあります

【調査方法】

1. 提出して頂いた各家庭の掃除機ダストの放射能濃度を生協と環境研で測定します。環境研では粒径別にふるい分けてその由来(土のほこり・粒子が屋内に持ち込まれているのか、空気中のほこりが入ってくるのか、森から飛来なのか等)を分析します。
2. このデータと調査票情報との相関を調べます。平屋なのか高層マンションなのか、周辺環境はどういう状況か(周囲が畑、森、都市等)、家屋が木造かコンクリートか、窓の開閉や密閉度、換気扇・エアコンの稼働状況等との相関を調べます。
3. いろいろな方法を工夫(拭掃除の徹底、玄関前での靴の泥・衣類のはたきなど家の中に持ち込まない工夫、窓の開閉等)してもらった後での放射能濃度と推移を測定。

【協力参加手続き】

4月第2週(～4/14)までに下記参加申し込み用紙

【橋本県知事へ「東海第2原発再稼働不同意の意見表明のお願い」を提出】

橋本県知事は不在。山口副知事「皆さんの気持ちはしっかり受け止めました」

橋本県知事へのお願い(抜粋)

昨年の東京電力福島第一原発事故によって、いわゆるホットスポット地域となった私たち住民は、「被ばく」と食と生活環境の「汚染」という現実と直面し、たいへんな思いをしています。

これらいっさいは、もうこりごりです。

どうぞ、県知事におかれましては、県民の生命・財産・自然を守るといふ地方自治体の使命に鑑み、国の判断が示される前に、国に対して、県民の不安があること、自治体としても住民を安全に避難させることが困難であることを、国に率先して申し入れされることを切に願います。このことは、首都圏の住民をも守ることもつながります。

あわせて、国策として進められてきた原発である以上、これまでに生み出してしまった使用済み核燃料を長期にわたって管理すること。東海再処理施設の高濃度廃液等の管理を厳重にすること。関係自治体の財政や関係企業の雇用等に、急激な変化のないような施策を実施することを求めています。

いつ原発事故が起きるかわからない。いつ避難指示が出るか。その時はどうしようかと、常に不安と緊張を強いられる生活よりも、どうか安心して暮らせる茨城県にしてください。そのためにはどんな協力もガマンもいたします。

県知事は第一に、県民の声を聞き、県民を代表して東海第2原発の再稼働には同意できないことの見解を表明されることを、切に、切にお願いする次第です。

隣県福島の住民の被ばくと避難で生活を奪われる苦難を思い、茨城県民の不安を慮り、県知事として東海第2原発を再稼働させないことのご英断を何卒お願いいたします。

3月23日、脱原発くらし見直し委員会メンバー、生協役員の総勢10名で茨城県庁を訪問。橋本県知事が不在のため、山口やちる副知事に橋本県知事への要望書を提出しました。



予定の15分を大きく超え、40分の時間を割いていただき「皆さんの気持ちはしっかり受け止めました」との返答が副知事からありましたが、原発の危険性から県民を守るための、県としての主体的な姿勢、行動はうかがえませんでした。

「県庁へお願いにいきました」 取手市 山本初江

3月23日、茨城県庁へ東海第二原発再稼働させない様をお願いにいきました。県副知事にお会い出来た事は少しばかり前進したのでしょうか。女性の副知事で、放射能に対する恐れを肌で感じてはいらっしやる様に見受けられました。常総生協みんなの思いをどうか県知事に強く伝えて頂きたいと思います。



副知事との面談後、県の原子力安全対策委員会の3人に話をうかがいました。色々と質問して、県の原発や日本原電に対する対応を聞いたのですが、まるで他人事のような返答に呆れてしまいました。福島原発事故を教訓として東海第2原発がアクシデントにみまわれた時の対応をどうするのかの想定をいまだにしてない。1年たっているのに何も。津波対策も断層帯の調査も日本原電の調査・報告待ちだとか。原電を監視・指導しようという姿勢がない。聞いていて開いた口がふさがらず、空恐ろしくなっていました。(自分たちが茨城県民の命と生活を率先して守り抜くという使命感がまったくない)

今のままだと事故が起きた時、茨城県民は第2の原発事故による棄民になってしまいます。自分の命は自分で守るしかないのか。命が惜しくば茨城から逃げたほうがいいのか。最悪です。どうか橋本知事、これ以上逃げないでください。

●●● 国立環境研・常総生協「室内ダスト放射能調査」に協力・参加します ●●●

コース名 _____ 班名 _____

組合員No. _____ お名前 _____ お子さん(歳) _____